

自律的学習者が育つ英語授業 —パフォーマンステストの実践より—

（実践者）河野 圭美

１ 研究テーマ設定の理由

グローバル化がますます進展することが予想される次代に生きる生徒には、異なる文化や歴史的背景をもつ人々と共存し、課題をよりよく解決することができる資質や能力が求められている。そのために、英語を知識として蓄積するだけの学習者ではなく、学んだことを積極的に使っていく、更にそれらを伸長させようとする自律的学習者を育成しなければならない。

そのために、昨年度有効であったパフォーマンステストを取り入れた授業作りを行う。コミュニケーション能力を測るパフォーマンステストでは、身に付けた知識を使いこなすことが求められる。知識を詰め込むだけではなく、授業において知識を活用して課題を解決していく過程において、生徒たちの思考力、判断力、表現力も育成されていくものと考え。本年度は、「話型」を活用した学び合いや、「逆向き設計テンプレート」による指導や評価方法を充実させることでコミュニケーション力を育成したい。

持続可能な社会を形成するためには、様々な考えをもつ人々が良好な関係を築きながらコミュニケーションを図っていくことが必要である。良好な関係の上に成り立っているコミュニケーションとは、相手の言いたいことを理解して適切に応じたり、自分の言いたいことを相手に分かりやすく伝えたりすることである。つまり、論理的に思考し表現する力である。この力を生徒同士の学び合いの場面でも発揮させることで、自ら学んでいこうとする姿勢や表現力の向上につながると考える。

以上のように、「自律的学習者が育つこと」を意図して授業を構成することにより、自分の気持ちや考えを表現し伝える力を育成することができると考え、本研究テーマを設定した。

２ 研究の内容及び方法

（１）資質・能力を高めるための協同的な学び合いの充実

生徒が目指す姿に向けて他者と対話しながら学んでいくことは、人と関わり合う力を育てたり自分自身の成長や良さに気づき自尊感情が醸成されたりする学びにもつながる。グループで練習し、相手ができていない点についてアドバイスし合わせることで、他者と共によりよいものを生み出していくことを価値として自覚させたい。

ア 話型を活用した学び合い

昨年度もパフォーマンステストに向けて、友だちのパフォーマンスについてグループでアドバイスをし合う活動を行ったが、何をどのようにアドバイスすればよいか困っていた生徒もあり、深まりのある学び合いになっていないグループもあった。そこで本年度は、「話型」を用いて話し合わせることで、友だちへのアドバイスの際、思考の手助けになったり、友だちからの適切なアドバイスで自分のパフォーマンスが磨かれたりすることで、思考力・判断力・表現力の向上を目指したい。

イ 相互評価の充実

パフォーマンステストに向けて、培った論理的思考力や表現力を測るための評価基準を明確にした評価表を用いて相互評価を行わせる。目標に対して、自分の成長や課題を発見すると、自信につながったり新たな目標をもったりでき、生徒のやる気やメタ認知能力は高められる。また、

これらの学びをポートフォリオにまとめさせることで、生徒たちは具体的で効果的な解決策を考えられ、自律した学習者に近づくことができる。

(2) 資質・能力を育成するための指導の充実

目標を達成するための具体的な手立てとして、「逆向き設計テンプレート」を作成する。「逆向き」と呼ばれる所以は、単元末・学年末・卒業時といった、教育によって最終的にもたらされる成果（「結果」）から遡って教育を設計する点、また通常、指導が行われた後で考えがちな評価方法を先に構想する点にある（西岡，2016 年）。「逆向き設計テンプレート」を作成することにより、単元で身に付けさせたい力、指導方法や評価方法が明確になり、指導と評価の一体化が図られる。また、「CAN-DO リスト」での目標が反映されたテンプレートを作成し、身に付けてほしい力を明確にすることで、生徒が主体的に学習したり、教師が授業の改善を図ったりすることができる。これらのことを通して、生徒の資質・能力を育成したい。

(3) 知識・技能を効果的に習得するためのデジタル教科書の活用

パフォーマンステストを年に複数回行うためには、それに必要な時間を作り、生徒に力を付けさせなければならない。そのため、デジタル教科書を活用することで、コミュニケーションを支える「知識・技能」をより効率的・効果的に習得させたい。これらの結果として、日々の授業で言語活動のための時間を生み出すことができ、コミュニケーション力の向上が期待できる。

3 研究の実際

(1) 生徒の実態

生徒たちは1年生の頃、年複数回パフォーマンステストを行った。「魅力ある speaker」と「思いやりのある listener」を目標とし、アイコンタクトや笑顔、リアクションなどのコミュニケーション技術に加え、コミュニケーションストラテジーを積極的に用いて、自然な対話ができる力を身に付けている。最初は緊張して全体場で発表することが苦手だった生徒たちも、徐々に人前で自分を表現することの楽しさを味わったり、パフォーマンステストの有用性を感じたりすることができた。パフォーマンステストにおいて生徒が一番難しいと感じていたことは、友だちの発表を聞いた後で行う質問であった。何を聞けばよいのか質問内容が思い浮かばずスムーズにコミュニケーションができなかったと感じる生徒が多くいた。そこで本年度は、質問する力の育成も重視して日々の授業を構成した。特に、全校的に取り組み始めた「問答ゲーム」（相手からの問いに自分の考えをはっきりと分かりやすく伝えるゲーム）（出典：つくば言語技術教育研究所）とのつながりをもたせて、6W1Hを意識して質問させることが有効であると考えた。

本年度は、12月までに3回教科書本文の音読テストを行った。ほとんどの生徒はすらすらと読むことができるが、本文の内容が伝わるような音読ができる生徒は数名であった。テスト後に書かせた感想では、上手な生徒の音読を聞くことで、強弱を付けたりポーズを取ったりしながら読むと聞き手に伝わる音読になることが分かったと多くの生徒が書いていた。また、与えられたテーマについて英語で書く活動においては、決められた数の文を書くことはできるが、自分の気持ちや考えなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりを意識したり、文を付け加えて詳しく書いたりすることには課題が残る。以上のようなことから、本単元で、自分の言いたいことが相手に伝わる内容や話し方を意識させる指導を行った。

(2) 論理的に思考し表現する力を高めるための工夫

論理的表現力を「聞き手の納得が得られるようにスピーチを構成し、分かりやすく伝える力」

とした。これを発揮しながら教科の研究テーマに迫れるよう、前述のような生徒の実態も踏まえ、以下の二つのことを取り入れた。

一つ目は、スピーチ原稿を作らせるとき、文と文のつながりや構成を意識して作らせたことである。その際、ループリック（表 1）をあらかじめ示すことで、読み手に分かりやすい原稿となるよう意識して作成させた。

二つ目は、「話型」を取り入れたことである。本単元では、以下の 2 種類の話型を作成した。「友だちのスピーチについて良かった点や改善点を伝えるときの話型（資料 1）」、「感想を述べたり質問をしたりするときの話型（資料 2）」である。論理的に思考し、それを表現させるために、まずはその型をしっかりと身に付けさせることが大切であると考えた。そして話型を手がかりにしながら、少しずつ自由に自分の気持ちや考えを表現できる生徒の姿を目指した。「感想を述べたり質問をしたりするときの話型」は 6 W 1 H を用いたものを紹介した。昨年度のパフォーマンステストでは、友だちのスピーチの後で、質問をすることに不安を感じていた生徒が多いため、本年度は問答ゲームの 6 W 1 H を意識して質問させた。帯学習では、毎時間 2 名の生徒がそれぞれ 30 秒ずつスピーチを行った後で、6 W 1 H を意識して対話させる活動を行った。

自分の気持ちや考えを表現できる生徒の育成につながるよう、以上の二点を工夫して指導した。

表 1 スピーチ原稿評価のためのループリック

内容 文法	A	与えられたテーマについて事実の羅列だけでなく、3 文以上はその事実について詳しく理由や例を挙げて、相手に分かりやすい英語で表現できる。既習の英語に少し間違いがある程度である。
	B	与えられたテーマについて、事実の羅列だけでなく、1 文はその事実について詳しく理由や例を挙げて、英語で表現できる。または、1 文以上は事実について詳しく理由や例を挙げて表現できているが、既習の英語に間違いが多い。ただし、理解の妨げにはならない。
	C	与えられたテーマについて、事実の羅列だけになっている。または、既習の英語に理解の妨げになるような間違いが多い。

[Advice for speakers]

～相手の良かった点を伝える表現例～

① I like your

- smile.
- eye contact.
- voice.
- posture.
- pronunciation.
- expression.

② Your

- smile
- eye contact
- voice
- posture
- pronunciation
- expression

is

- wonderful.
- good.
- great.
- nice.
- fantastic.
- amazing.

③ You made eye contact well. (アイコンタクトがよくできていたよ。)

④ You spoke clearly. (はっきり話せていたよ。)

⑤ You spoke fluently. (流ちょうに話せていたよ。)

～相手の改善点を伝える表現例～

① Please

- smile more.
- make eye contact more.
- speaking more loudly.
- speaking more slowly.
- speaking more clearly.
- stand up straight.

[Comments & Questions for speakers]

～スピーチの内容に対する感想を伝えるときの表現例～

① Your speech was

- wonderful.
- good.
- great.
- nice.
- fantastic.
- amazing.

まず、①を伝えよう。
それから②や③の内容
に対する感想を伝えよう。

② I want to [eat a hamburger, too].
～したい

③ I think that [the Eiffel tower is beautiful].

～スピーチに対する質問をするときの表現例～

【What(何)】

- ① What kind of (cheese) do you like?
- ② What flavor will you eat?
- ③ What else will you buy?
- ④ What will you buy for your family?
- ⑤ What do they speak in the country?

【Why(なぜ)】

① Why will you go there?

【Who(だれ)】

- ① Who are you going to go with?
- ② Who is your favorite player?

【How(どのように)】

- ① How many sausages will you eat?
- ② How much will you bring?
- ③ How much is ()?
- ④ How will you go there?
- ⑤ How long will you stay in ()?

【When(いつ)】

① When will you go there?

【What ～ for?(何のために)】

① What will you go there for?

【Where(どこ)】

① Where is ()?

【その他】

- ① Are you going to travel by yourself?
- ② Did you go there before?
- ③ Do you like ()?

資料 1 友だちのスピーチについて良かった点や改善点を伝えるときの話型

資料 2 感想を述べたり質問をしたりするときの話型

(3) 授業の実際

ア 指導の実際

(7) 単元名 TOTAL ENGLISH 2 Chapter 2 Project 旅行の計画を立てよう

(1) 単元目標

○will や be going to を用いた文構造を理解し、海外旅行の計画について表現することができる。

○友だちの発表を聞いて、感想を言ったり質問したりすることができる。

〔本質的な問い〕

どうすれば、海外旅行計画を題材にして友人と英語で豊かなやりとりができるか。

〔永続的な理解〕

海外旅行計画を立てるためには自分の興味・関心に応じて国を選び、その国の文化やその国に行くときの手続きなどについて知る必要がある。また、意志未来の予定を表すときには will を用い、はっきりと予定が決まっている状況では be going to を用いて表現することが重要である。旅行計画について伝えるときには、文の構成に沿って話すとともに、行く場所やすることなどに加えて、その理由や自分がなぜ魅力的に感じるのかなどについて述べるとよい。聞き手は 6 W 1 H を意識して聞くことが大切である。これらにより、他者と豊かなやりとりをすることができる。

(ウ) 「逆向き設計テンプレート」による単元計画

第 1 段階：求められている結果	
【本単元における目標】	
(a) 研究テーマに対して： 海外旅行計画について、聞き手に伝わるように工夫してスピーチをすることができる。	
(b) 「論理的に思考し表現する力」に対して： ・海外旅行計画について、自分の気持ちや考えが伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くことができる。 ・海外旅行計画について、友だちと質問したり感想を述べ合ったりして、自然な対話をすることができる。	
永続的な理解 省略	本質的な問い 省略
【生徒は次のことができるようになる】	
(a) について： ・アイコンタクトをとりながら笑顔で話すことができる。 ・正しい姿勢で話すことができる。 ・適切な声の大きさを話すことができる。 ・大切な言葉は強調して話すことができる。	
(b) について： ・海外旅行計画について、文と文のつながりを意識しながら、8～10 文程度で読み手に分かりやすいスピーチ文を書くことができる。 ・海外旅行計画について、事実の羅列だけでなく、3 文以上は理由や例を挙げて読み手に分かりやすい英語で表現できる。 ・友だちのスピーチに対して、話型を手がかりにして、6 W 1 H を用いて英語で質問したり、感想を述べたりすることができる。	
第 2 段階：評価のための証拠	
(a) に対して： パフォーマンス課題 省略	他の根拠 ・音読テスト ・自己&相互評価 ・ポートフォリオの自己分析についての記述
(b) に対して： パフォーマンス課題 省略	他の根拠 ・ペアでの 30 秒スピーチの様子 ・ペアでの 30 秒スピーチの原稿 ・言語活動の様子 ・自己&相互評価表 ・ポートフォリオの自己分析についての記述
第 3 段階 学習計画	
1 本文を読んだり聞いたりして内容を正しく理解する。 自分の興味・関心に応じて海外旅行で行きたい国を選び、海外旅行の計画を立てる。	
2 英文の特定の内容について理由や情報を加える。英文を練り直す。	
3 海外旅行計画について自然な対話ができるよう、練習する。	
4 パフォーマンステストを行う。ポートフォリオをまとめる。	

(I) 評価目標と評価方法

評価目標	評価方法
①例文を参考にして、スピーチ原稿を熱心に書いている。 ②話型を用い、ペアで積極的に対話を続けようとしている。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度) ③海外旅行計画について、読み手に分かりやすく文のつながりを意識して、8～10文程度で書くことができる。 ④スピーチ原稿を元に、ペアで質問したり感想を言ったりして、会話している。(外国語表現の能力) ⑤正しい語順や語法・話型を用いて文を構成する知識を身に付け、コミュニケーションの手段として適切に運用している。(言語や文化についての知識・理解)	◎パフォーマンス課題 もうすぐ夏休みです。あなたは、夏休みに海外旅行に行くことになりました。行き先、してみたいこと、買いたいもの、食べたいものなどについて計画を立ててください。それぞれのことについて1文だけでなく、そうしたい理由などを述べると、相手を惹きつける文章になります。今までに学習した表現を使って、分かりやすい内容に仕上げてください。そして、友だちの旅行計画を聞いて、感想を言ったり質問したりしなさい。(②④⑤) ○観察(①) ○ワークシート(③)

話すこと(やりとり)	話すこと(発表)	書くこと
海外旅行計画に関するスピーチについて表現集を参考にしながら簡単な英語を用いて感想を述べたり質疑応答したりすることができる。	海外旅行計画について、聞き手に伝わるように、理由なども述べながらスピーチをすることができる。	海外旅行計画について、自分の気持ちや行きたい理由などを述べる表現を用いて10文程度のまとまりのある英語で書くことができる。

2年生 Chapter2の単元におけるCAN-DOリスト(話すこと・書くこと)

1 Eye contact & Smile
アイコンタクトをしながら、自然な笑顔でできている
A (2点) B (1点) C (0点)
2つともできた 1つできた ひとつもできなかった
2 Good posture & Clear voice
よい姿勢で大きな声でできた
A (2点) B (1点) C (0点)
2つともできた 1つできた ひとつもできなかった
3 Pause & Stress
ポーズをとったり大切な語を強調したりして読んだ
A (2点) B (1点) C (0点)
2つともできた 1つできた ひとつもできなかった
4 Comments
スピーチの内容に対するコメントを2文話そう
A (2点) B (1点) C (0点)
表現例①～③の中から2種類使えた 表現例①～③の中から2種類使えた コメントができなかった
5 Questions
スピーチの内容に対する質問をしよう
A (2点) B (1点) C (0点)
正確な文法で質問できた 文法に間違いはあったが質問できた 質問できなかった

パフォーマンステストで用いたルーブリック

(オ) 指導計画(全5時間)

学習内容	◇評価規準(観点)	時間
○本文を読んだり聞いたりして内容を正しく理解しよう。 ○自分の興味・関心に応じて海外旅行で行きたい国を選び、海外旅行の計画を立てよう。 ○英文の特定の内容について理由や情報を加えよう。 ○英文を練り直そう。	◇文のつながりや構成を考えた文章を書くことができる。(表現) ◇相手に理解してもらえるように、難しい言葉を別の語句や表現で言い換えるなど工夫して書いている。(関心・意欲・態度) ◇2つの未来表現(will, be going to)の違いを理解して文章を作っている。(知識・理解)	3
○海外旅行計画について自然な対話ができるよう、練習しよう。 ○パフォーマンステストを行おう。 ○ポートフォリオをまとめよう。	◇話型を用いて、スムーズに対話を続けようとする。(関心・意欲・態度) ◇友だちの発表を聞いて、英語で感想を言ったり質問したりしている。(表現)	2

グループでの練習

イ 生徒の学びの実際

パフォーマンス課題で用いたルーブリックによる評価の結果（２年生１クラス 39 名対象），生徒のスピーチ原稿（資料２），生徒の感想は以下の通りであった。

〈原稿を作成するとき：教師による評価〉

内容 文法	A	与えられたテーマについて事実の羅列だけでなく，３文以上はその事実について詳しく理由や例を挙げて，相手に分かりやすい英語で表現できる。既習の英語に少し間違いがある程度である。	17 人
	B	与えられたテーマについて，事実の羅列だけでなく，１文はその事実について詳しく理由や例を挙げて，英語で表現できる。または，１文以上は事実について詳しく理由や例を挙げて表現できているが，既習の英語に間違いが多い。ただし，理解の妨げにはならない。	20 人
	C	与えられたテーマについて，事実の羅列だけになっている。または，既習の英語に理解の妨げになるような間違いが多い。	2 人

Hello, every one.
I'm going to <u>America</u> next month.
I will watch <u>A tennis game</u> . I like tennis
Very much.
I will have 'a <u>hamburger</u> . American foods are <u>very big</u> !
After that, I will visit <u>New York City</u> . There are
a lot of lots of <u>sweets</u> there, so I will buy <u>sweets</u> .
I will have a <u>good time</u> .
Thank you for listening.

資料２ 生徒のスピーチ原稿

〈パフォーマンステストのとき：生徒による自己評価〉

項 目	A	B	C
アイコンタクトをしながら，自然な笑顔でできている	19 人	20 人	0 人
よい姿勢で大きな声でできた	25 人	14 人	0 人
ポーズをとったり大切な語を強調したりして読んだ	9 人	20 人	0 人
スピーチの内容に対する感想を２文話そう	34 人	5 人	0 人
スピーチの内容に対する質問をしよう	33 人	5 人	1 人

No. I'm going to travel with my family.

Are you going to travel by yourself?



パフォーマンステスト（質疑・応答）の様子

〈生徒の感想〉

- 与えられていた英語表現から派生して，自分で考えた表現を使って，感想を伝えることができた。
- 自分がやりたいと思っていた，スラスラ英語を話す，と言うことがしっかりできた。
- 僕は英語でコメントを伝えたり質問をしたりするのが苦手だった。でも，今回プリント（話型）を見ながら言うとても楽しかった。

ウ 考察

すべての生徒が論理的に思考し，それを表現させるために，まずはその型をしっかりと身に付けさせることが大切であると考え，話型を与えた。生徒の感想にあるように，英語が得意な生徒にとっては，話型を与えたことで様々な表現を使おうとチャレンジすることができた。また，英語が苦手な生徒にとっては，英語が話せる喜びを感じていた。

友だちのスピーチの後で質問をしたり感想を言ったりする評価は８割以上の生徒はＡであった。評価がＡの生徒は，教師が与えた話型の中から自分の感想を伝えた者がほとんどであった。また，Ｂ評価の生徒のほとんどは，プリントを見ながらなんとか伝えることができたり，１文伝えるのが精一杯であったりというのが実態である。感想は伝えられてもスピーチの内容に合っていないものもあった。

話型の導入は思考力・判断力・表現力を育成する手立てであった。今後少しずつ話型から発展

し、自由に自分の気持ちや考えを表現できる生徒の姿を目指したい。

4 成果と課題

(1) 資質・能力を高めるための協同的な学び合いの充実

「グループで話し合いをさせるときの話型（資料3）」を用いさせたり、評価表を用いて相互評価させたりしたことで、どのグループも話し合いを円滑に行うことにつながり、生徒同士で表現力を高め合うことができた。来年度、ポートフォリオについては、自分の学習のあり方について考えたり、自分の目標達成のために役立ったりするようなものになるよう研究したい。

〈生徒の感想〉

- 友だちのパフォーマンスを見て、パフォーマンスの工夫をたくさん知ることができた。
- 友だちのパフォーマンスから、話すときに、こうしたらいいなという強弱の仕方やポーズが分かった。
- 自分だけでは見つけることができないミスなどを友だちが積極的に指摘してくれたのでとても良い話し合いとなった。

グループの話し合いの司会進行

- ☆Listener はメモを取りながら話を聞くと、後でやりとりしやすい
- ☆ Speaker は Listener とのやりとりが終わるまで座らない

1. スピーチをする

2. Speaker と Listener がやりとりをする

- ①Do you have any comments and any questions, (Listener 1 の名前)?
- ②〈Speaker と Listener 1 のやりとり〉
- ③Thank you, (listener 1 の名前).
- ④Do you have any comments and any questions, (Listener2 の名前)?
- ⑤〈Speaker と Listener 2 のやりとり〉

3. Listener の評価をする

- ①Let's evaluate (Listener1 の名前)'s comments and questions.
- ②〈Listener 1 の評価についての話し合い〉日本語 OK
- ③〈Listener 1 は話し合って決まった評価をワークシートに記入する〉
- ④Let's evaluate (Listener2 の名前)'s comments and questions.
- ⑤〈Listener 2 の評価についての話し合い〉日本語 OK
- ⑥〈Listener 2 は話し合って決まった評価をワークシートに記入する〉

資料3 グループで話し合いをさせるときの話型

(2) 資質・能力を育成するための指導の充実

逆向き設計テンプレートを活用し単元を計画することで、見通しをもって明確に指導することができた。また、「本質的な問い」「永続的な理解」「パフォーマンス課題」を設定することは、生徒の「なぜ英語を勉強しなければならないのか」や「英語を勉強することが将来、何の役に立つのか」といった疑問を解決するものであると考える。

「CAN-DO リスト」と対応させて身に付けてほしい力を明確にしたことで学習意欲が向上した。また、目標について振り返りを行わせたとき、「次は～ができるようになりたい」という主体的な気持ちが生まれ、自律的学習者に必要な態度や姿勢を身に付けることができた。

(3) 知識・技能を効果的に習得するためのデジタル教科書の活用

教科書の本文内容理解においてデジタル教科書を活用した。導入では、映像資料やピクチャーカードを見せた。また音読練習では、英文と日本語を同時に表示してオーバーラッピングを行ったり、だんだん速さを速くしたりしながら練習させた。本文を解説する際は、ペنツールを用いて書き込みをしながら説明した。紙の教科書のみを使用していた時より、生徒は生き生きと授業を受けるようになり、学ぶ意欲が高まり、理解も深まるなど、学びを充実させるものであった。デジタル教科書では「聞く・話す」の活動を以前よりも効率的に行うことができるようになり、インプットの量も増えたため、listening や speaking の力が高められた。今後もデジタル教科書を上手く活用し、知識・技能を効果的に習得させることで、コミュニケーション力を高めたい。

参考文献

西岡加名恵(2016)「教科と総合学習のカリキュラム設計」図書文化社

佐藤 一嘉(2014)「ワーク&評価表ですぐに使える！英語授業を変えるパフォーマンス・テスト 中学2年」明治図書